



國家圖書館編

東亞同文書院 中國調查手稿叢刊

191



六月三日

六月四日

國家圖書館出版社



國家圖書館編

東亞同文書院
中國調查手稿叢刊

191

國家圖書館出版社

第一九一冊目錄

昭和十七年（一九四二）調査報告（第三十九期生）

漢口地方の輕工業に就いて

漢口地區的輕工業 大森史郎 鈴木良介

漢口を中心とする棉花蒐荷制度

以漢口爲中心的棉花集散制度

緒方正義

安藤資郎

村田裕彦

.....

一〇三

農村生産物の蒐荷制度（蕪湖の米）

農村物産的集散制度（蕪湖大米）

村田裕彦

安藤資郎

緒方正義

.....

一八五

北支、中支政治建設の狀況について

華北、華中政治建設狀況

阿久津房治

小野桂

門田功

.....

二八五

蘇州並びに蚌埠に於ける金融機關と通貨の現狀

蘇州及蚌埠の金融機構和貨幣現狀

百瀨源

田中市松

秋山征士

瀧本一夫

.....

三八五

昭和十七年度

大旅行調査報告書

漢口地方の輕工業に就つて

第二十三班

大森史郎

鈴木良介

東亞同文書院大學學生調査大旅行指導室

昭和拾七年度

調査報告

「漢口地方の軽工業に就て」

大旅行二二班

大森 史郎
鈴木 良介

目次

序説

一

第一章 支那事変による漢口地方輕工業の影響 三

第二章 各種工業部門に就て事変を比較 三四

第三章 大東亞戦争の外人収益に對する影響 八七

索引

序説

武漢三鎮は往昔より五方雜処、或は九省の會と称せられ
て居たが、京漢、粵漢兩鉄道の間、通は曾に九省に上らず、西北
西南は勿論殆んど全支大陸に服略し、支那の心臓部を形成
するに至つた。

即ち西北は漢水を溯つて陝西、甘肅の一帶に連絡し、京漢
線に依つて北支に及び、東は長江に沿ひ、江西、安徽、江蘇、浙江
並に口外に、南は洞庭湖を越えて湖南、広西、貴州に連なり
粵漢線に依つて、広東、広西に通じ、西は長江に依り、四川、康西
西藏に連絡してゐる。

2

而して之等広漠万里の背後地域は長江流域は勿論の事、	北黄河流域、南の珠江流域に至る強んぶ全支の沃野を把握	してゐるのぞ、此の地に産する絶大なる農産資源を動員す	る事に依つて、武漢の地は全支屈指の大商工業の中心地を	形成して来たのであるが、支那事変が始まり、揚子江が作戦	圏内に入つてより、急激に衰微し始め、遂に前代未曾有の大	変革期に遭遇するに至つたのである。	昭和十三年十月下旬、日本軍の武漢占領後、その背後地域	も若干拡大され、揚子江は漢口の上流宜昌より江口迄、粵漢	線も亦岳州迄、京漢線は信陽迄、漢水は仙桃鎮迄、大々攻略也
---------------------------	----------------------------	----------------------------	----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	-------------------	----------------------------	-----------------------------	------------------------------

られて、夫々その背後地を形成してゐるが、これ素より背後地主要都市の占據であり、所謂點と線との連絡なれば、その間隙を縫つての遊撃匪の横行、物資の流出あり、純然たる背後地と云ふを得ず、事變前に於ける漢口の特色は全々消失したと云ふも過言でないであらう。

第一章 支那事變による漢口地方輕工業一の影響

A. 事變後武漢輕工業概況

武漢の戦禍は比較的少く、敵軍事施設の爆破と、支那軍に依る日本權益の破壊と、自口工場を日本軍に利用されるを恐れ、自爆したのを除いては、一般的に流弾による破壊損及

4.

び、支那軍敗走の際の掠奪其他による家屋の破壊及び家財の散乱等であつた事である。而して漢口に於ける生産部門が受けた被害は次表の如くである。

熊別	工場数	資本(元)	年産額(元)	工人数
実数	%	実数	%	実数
一七五	三三・七	三、七〇九、四九	四一・八	一、三六九、六二九
四八	九・二	四、四七四、八七	五・〇	二、〇七五、五九
二九	五・六	一、二四九、三八	〇・一	四、一六〇、七〇
一三	二・五	九、三六六、六六	一、〇・三	三、〇三八、〇三四
破壊				
焼失				
市街移轉				
興地移轉				
一三	二・五	九、三六六、六六	一、〇・三	三、〇三八、〇三四
二九	五・六	一、二四九、三八	〇・一	四、一六〇、七〇
四八	九・二	四、四七四、八七	五・〇	二、〇七五、五九
一七五	三三・七	三、七〇九、四九	四一・八	一、三六九、六二九
実数	%	実数	%	実数
四一・八	三三・七	三、七〇九、四九	四一・八	一、三六九、六二九
五・〇	九・二	四、四七四、八七	五・〇	二、〇七五、五九
〇・一	五・六	一、二四九、三八	〇・一	四、一六〇、七〇
一、〇・三	二・五	九、三六六、六六	一、〇・三	三、〇三八、〇三四
漢口商工会議所調査(十七、四)				

前頁より続き

停	工	一四六	六、二	五、九	四、七	二、五	八	一、四	六、三	九	三、八
復	工	一〇八	二〇、八	六、六	一〇、六	一、八	四	三、四	五、三	九	一、五
合	計	五一九	一〇、〇	九、三	四、九	八	一〇〇	二、五	五、三	四	一〇〇
即ち蔣政權に駈り立てられ、外地に移轉したものは、工場敷に於いて、$\frac{1}{2}$資本生産額は殆んど半数に及ばんとして居る。尚他に市内に移轉したものの数多く、外口権益収に隱匿し、戦後日本側に又は新政府側へ協すといふた。焼失工場には大なるものが無いが、破壊工場中には泰											
5. 安紡績等の大なるものが徹底的に破壊され、其他は兵火に											

東亞同文書院大學學生調査大旅行指導室

場の復興振りは極めて微々たるもので、精米、木、靴、下金
 属品等の生産必需品製造に止つてゐる。
 以上を要約すれば支那側工場は官営工場は勿論、民営工場
 の主たるものも大部分は興地又は市域に移轉し、多くはそ
 の空家のみを留めて居る。破壊工場は日本側の利用を恐
 れた支那側が自らの工業を自壊したのと、憎悪のため、日
 本權益工場を破壊したものとであり、ヤシロ權益工場は殆
 んど破壊被害甚く、多く戦前の状態を維持してゐるが、その
 復興したる一部の工場は戦後武漢操業工場中の重要地位
 を占めてゐる。一般主要工場であつて復興したるものは